

社会資本整備審議会 道路分科会 第15回 国土幹線道路部会

ヒアリング資料

平成26年10月21日

東京都





本日の発表骨子

- 1 東京が抱える様々な課題
- 2 東京の将来像
- 3 都における道路を『賢く使う』意義
- 4 首都圏における高速道路の現状と課題
- 5 これまでの都の取組み
- 6 東京都の意見

- **オリンピック・パラリンピック** 大会の確実な成功
- **少子高齢社会** 人口減少局面への転換、活力の維持
- **国際競争力の強化** アジア諸国等の台頭、日本のプレゼンス低下
- **大規模災害への備え** 首都直下型地震や豪雨災害などの脅威
- **福祉・医療の充実** 子育て環境の改善、高齢者の安心・安全
- **豊かな環境の保全** スマートエネルギー化の推進

など



東京の将来像

目指すべき将来像

「世界一の都市・東京」の実現

基本目標Ⅰ

史上最高のオリンピック・パラリンピックの実現

オリンピック・パラリンピック開催を起爆剤とした都市の発展

基本目標Ⅱ

将来にわたる東京の持続的発展の実現

少子高齢・人口減少社会への対応をはじめ、山積する課題を解決

基本目標 I

史上最高のオリンピック・パラリンピックの実現

①成熟都市・東京の強みを生かした大会の成功

大会関連施設の着実な整備、公共空間のバリアフリー化、多言語対応の充実など



②高度に発達した利用者本位の都市インフラを備えた都市の実現

三環状道路の整備、空港・港湾の機能強化、駅のホームドア整備など

③日本人のこころと東京の魅力の発信

ボランティアの育成・活用拡大、芸術文化拠点の形成など

基本目標Ⅱ

将来にわたる東京の持続的発展の実現

④安全・安心な都市の実現

ソフト・ハード両面の総合的な震災対策、豪雨対策、防犯対策など

⑤福祉先進都市の実現

保育サービス拡充、高齢者・障害者の安心して生活できる環境の整備など



⑥世界をリードするグローバル都市の実現

拠点駅周辺開発、外国企業の誘致、中小企業支援、留学支援など



⑦豊かな環境や充実したインフラを次世代に引き継ぐ都市の実現

都市インフラの予防保全型管理、スマートエネルギー化の推進など

⑧多摩・島しょの振興

多摩ニュータウン再生など

都における道路を『賢く使う』意義

「東京都長期ビジョン（仮称）の主な視点

オリンピックの成功

国際競争力の強化

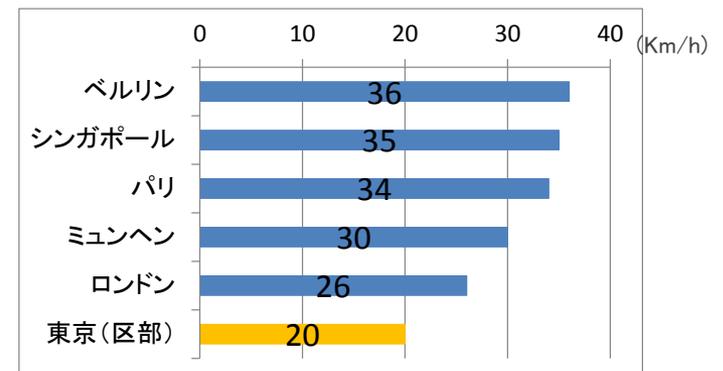
防災性の向上

豊かな環境の保全

道路を『賢く使う』コンセプト

都においては渋滞緩和に向けた
解決方策の一つとして期待

主要都市の平均旅行速度



出典：「自動車交通研究2013」などをもとに作成

三環状道路の整備を推進し、外側誘導をベースにおいた
高速道路施策への取組み（料金体系・渋滞対策）



①環状道路のミッシングリンクの解消

首都圏高速道路ネットワークが未完成

②外側の環状道路が高く、会社毎に異なる料金体系

外側の環状道路が活用されない

利用者にとって分かりづらい料金体系

③ボトルネック箇所の慢性的な交通渋滞

容量不足などの構造的な課題



①環状道路のミッシングリンク

繋がらなければ外側誘導などのネットワークの効果が発揮されない

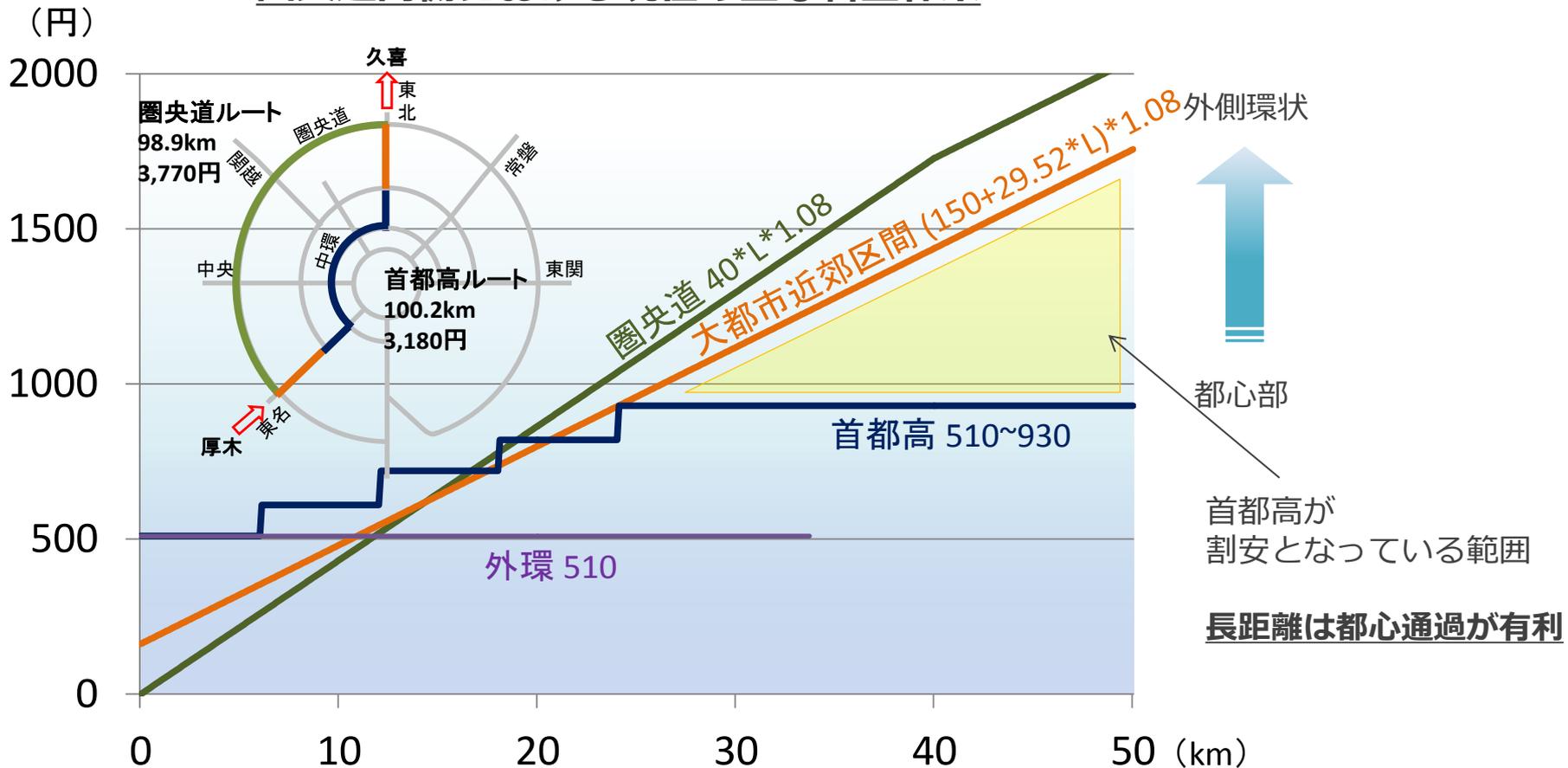


出典：国土交通省関東地方整備局ホームページ

②-1 外側の環状道路に高い料金設定

都心部を通過するだけの交通を外側の環状道路に誘導できない

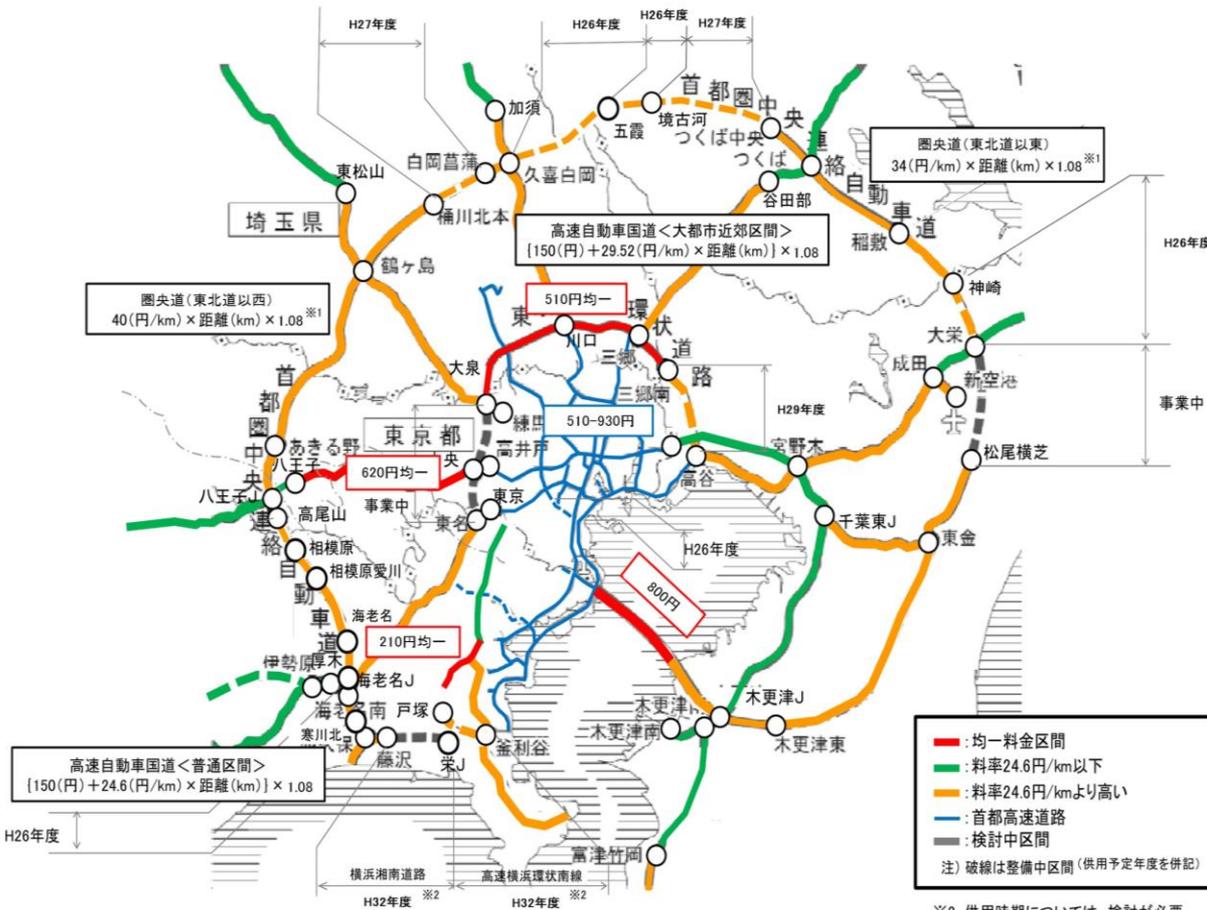
圏央道内側における現在の主な料金体系



②-2路線や管理者ごとに異なる料金体系

複雑で分かりにくい 乗継時の料金バリア

首都圏の料金水準の現状



都民・事業者からの声 (例)

- 多摩地域から都心方向に向かうと、中央道と首都高の料金を徴収される。
- 大口多頻度利用者が使いやすいシステムを作ってほしい。

※1 40kmを超える利用分については、料率を高速国道と同率に還元

※2 供用時期については、検討が必要

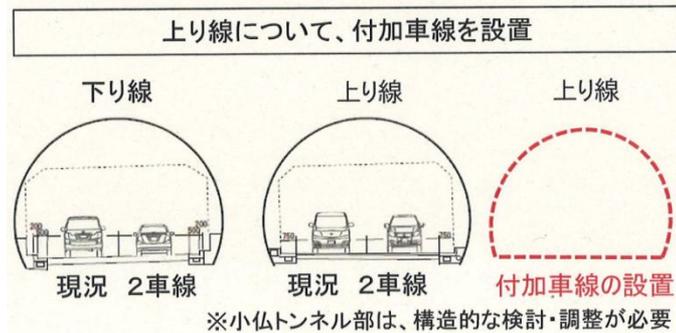
③ボトルネック箇所の慢性的な交通渋滞

交通容量の不足など道路の構造的な課題

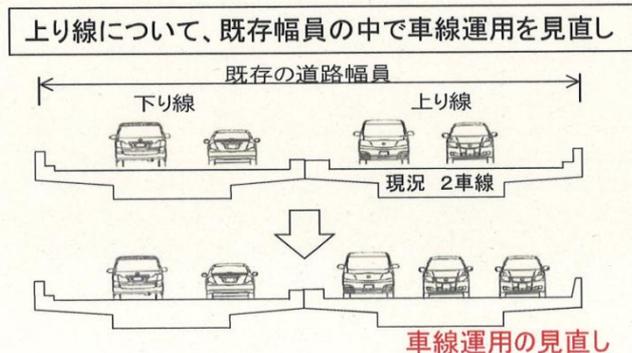
首都圏の高速道路における主なボトルネック箇所



【渋滞対策イメージ】 (2)小仏トンネル付近



(1)調布付近



環状道路等の整備

○東京外かく環状道路（関越道～東名高速）

- ・地下化に関する地元調整
- ・用地取得事務を国から受託

○首都高速 中央環状品川線

- ・早期整備に向けて街路事業として着手し、整備を推進

○都内の一般道路

- ・都市計画道路の事業化計画を策定し、計画的・効率的に整備を推進

道路の使い方に関する国への要望等

道路4公団民営化前から、利用しやすい料金体系の課題を提起



一都三県知事提言(H19)

- ・一体的料金体系の構築
- ・利用者負担の軽減

九都県市首脳会議・関東知事会など

- ・都心に集中する交通の外側誘導
- ・三環状道路の整備効果発揮
- ・利用者にとって使いやすい料金体系

○ 一体的で利用しやすい料金体系の構築

- ・ 都心部の渋滞緩和に資する環状道路の利用促進
- ・ 対距離料金を基本とした料金体系の一元化
(公平・公正な負担、会社間乗継による割高感の解消)
- ・ 各高速道路会社の収入バランスの確保 (確実な債務返済)
- ・ 長距離利用者等への負担軽減 (激変緩和措置等)

○ 高速道路の効率的な利用を促す I C T の導入

- ・ ビッグデータ、次世代 E T C 等によるリアルタイム情報を活用した交通誘導等

○ 環状道路の着実な整備と渋滞対策の推進

- ・ ミッシングリンクの解消によるネットワーク強化
- ・ 既存ストックの活用による交通容量の確保